

# 九州経済の自立・発展に資する商社活動



住友商事九州株式会社  
取締役社長

よしもと としお  
吉元 利夫

日本の1割経済といわれる九州の経済は、日本全体では景気の下振れ懸念は薄らいだといわれているが、実感としては回復には程遠い気がある。九州を代表する福岡県・福岡市においても、JR九州（新）博多駅建設工事を除けば、ほとんど建設用クレーンも立っておらず、事務所の空室率が15%を超えている現実に直面する。

しかしながら、九州は豊かな環境と地域資源に恵まれており、自動車、半導体関連、造船などをはじめとする産業・技術の集積があり、アジアに近いという地の利を活かして、中国、韓国、東南アジアとの関係も官民挙げて非常に深い結び付きがある。

私ども住友商事九州(株)は、2005年10月に住



住商セメント九州生コン工場（福岡県）



住商エアバッグ・システムズ製造工場（長崎県）

友商事(株)九州・沖縄ブロックと事業会社4社が統合して発足以来、住友商事グループの総合力を活かして「地域の暮らし・経済に密着し、豊かさと夢を実現する事業」を地域の取引先と共に目指している。

海外案件では、九州電力さまと合同で昨年9月から中国内蒙古地域で風力発電事業を開始している。これには日本側（九州電力、住友商事グループ）が合計49%出資して、5万kW規模の風力発電所建設・運営、電力の販売を行うもので、住友商事九州(株)も住友商事グループの中で一部出資している。そのほかにも、海外進出を検討されておられる九州の取引先さまには進出候補先の情報提供など、地域選定を含めたお手伝いを行っている。

国内案件では、長崎県松浦市の自動車用サイドエアカーテン・エアバッグの国内初の製造工場である住商エアバッグ・システムズ(株)に出資しており、また九州地区の川上から川下に至るセメント事業を統合した住商セメント九州(株)の事業展開を行っている。

それ以外にも、総合商社として従来のトレードビジネスを足掛かりにして事業展開を図り、九州のお客さまにさまざまな情報・ノウハウの提供を行い、九州の発展に貢献したいと考えている。

福岡に本社を置き九州・沖縄で4支店を擁している当社は、120名強の社員のうち九州・沖縄出身の社員が90%を超えており、地域のお客さまにより身近に接して、地域密着型の仕事にさらに尽力していく努力をしている。

九州には先に述べた種々の産業が集積しているが、最近では航空機産業、環境などの産業育成にも官民挙げて推進しており、地理的優位性を活かして中国、韓国、台湾さらには東南アジアを含めた広域経済圏の一環としての発展を考えていけば、今後さらに大きな展望が開かれると期待している。